

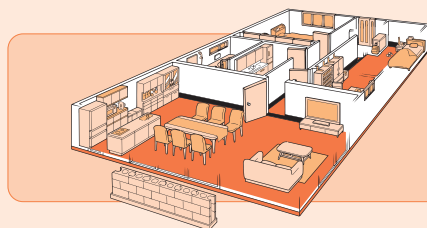
地震

地震が発生したとき、被害を最小限に留めるには、一人ひとりがあわてずに行動することが重要です。そのためには、日頃からの備えが必要。ここでは、横浜市の被害想定から備蓄品や避難まで、知っておくべき地震に関する情報をお届けします。

横浜市の
地震被害想定

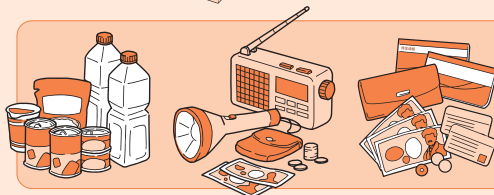
実際に地震が起きたら、どんな影響が出るのか……。科学的知見や蓄積する地震関連データから、予測される横浜市の地震被害を把握しましょう。

P.6

見直したい
家の中の安全

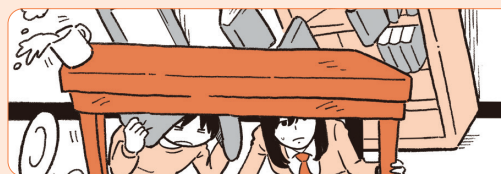
地震の被害を最小限に食い止めるために、部屋のレイアウトや家具選びなどを再確認しましょう。家具転倒防止器具や感震ブレーカーの重要性もチェック！

P.8

備蓄品や
非常持出品の準備

避難生活に備え、用意しておきたい備蓄品や非常持出品などをご紹介します。乳幼児がいる、ペットを飼っているなど、家庭ごとに必要なアイテムも知っておきましょう。

P.10

地震が起きたときの
身の安全

自宅にいるとき、地下街にいるとき、エレベーターに乗っているときなど、シチュエーション別に地震が起きたときの取るべき行動を学びましょう。

P.12

避難場所の
あれこれ

いざ、避難をしようと思ったときにどう行動するのがよいのか、実は知らないことがたくさん。避難場所といっても一概ではないので、詳しく知っておきましょう。

P.14

考えられる
被害への備え
(帰宅困難者・津波)

東日本大震災時にも問題になった「帰宅困難者の発生」と「津波」。過去の教訓を生かし、どう行動したらよいかを学びましょう。

P.16



地震後の避難生活

在宅避難や避難生活で大切なことなどを知しましょう。知っておくだけで、冷静な行動の手がかりに！

P.18

横浜市の地震被害想定

大地震でどのような影響が出るのかをあらかじめ想定しておくことは、減災行動を考える上で重要です。そこで、東日本大震災の教訓から、新しい科学的知見や蓄積してきた地震関連のデータをもとに、学識者やライフライン事業者とともに議論を重ね、新たな地震被害想定を策定しました。(平成24年10月に公表しています)

■ 想定対象とした地震

地震被害想定では4つの地震を想定対象としました。

げんろくがた 元禄型関東地震

関東大震災をもたらした大正型関東地震の約2倍のエネルギーを発生するマグニチュード8.1の想定地震です。市内の最大震度は7と想定されます。

東京湾北部地震

本市を含む首都圏での影響が極めて大きいとされるマグニチュード7.3の想定地震です。

南海トラフ巨大地震

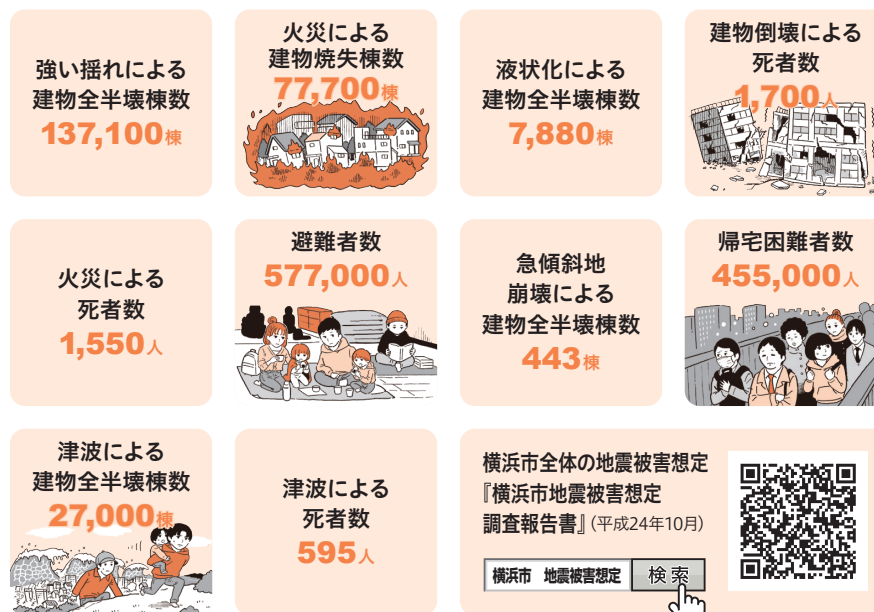
大津波をもたらすものとして内閣府でも取り上げているマグニチュード9クラスの想定地震です。

けいちょうがた 慶長型地震

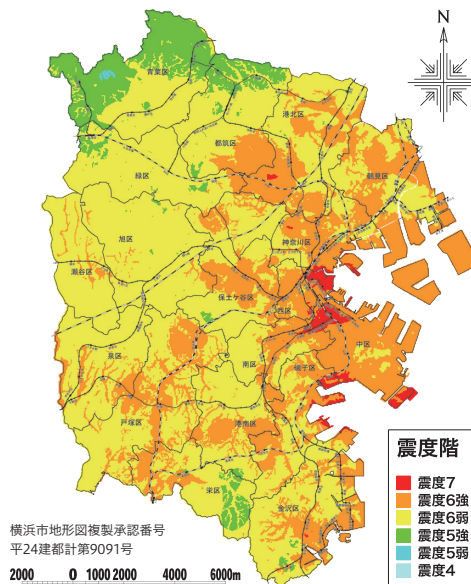
東京湾への大きな津波をもたらすものとして平成23年度に神奈川県が設定した想定地震です。満潮時には横浜市内でも海抜約4.9メートルまで浸水するものと想定されます。



■ 市内で考えられる被害 (元禄型関東地震で想定、津波は慶長型地震で想定)



■ 元禄型関東地震被害想定 地震マップ:市全域



この地震マップは、横浜市の地震被害で想定した4つの地震のうちの一つ、元禄型関東地震がもたらす震度を表したもので、市内の最大震度は7と想定されます。しかし、地震はいつ、どこでどのような規模で発生するのか予想は困難です。このマップで震度が市内で比較的低いと表示されている地域の皆さまも、やはり最大震度7を想定して、自助、共助の取り組みを進めていく必要があります。

横浜市消防局 平成24年10月作成:横浜市内地震被害想定調査に基づいて、市内における50mメッシュごとの震度階評価を行いました。

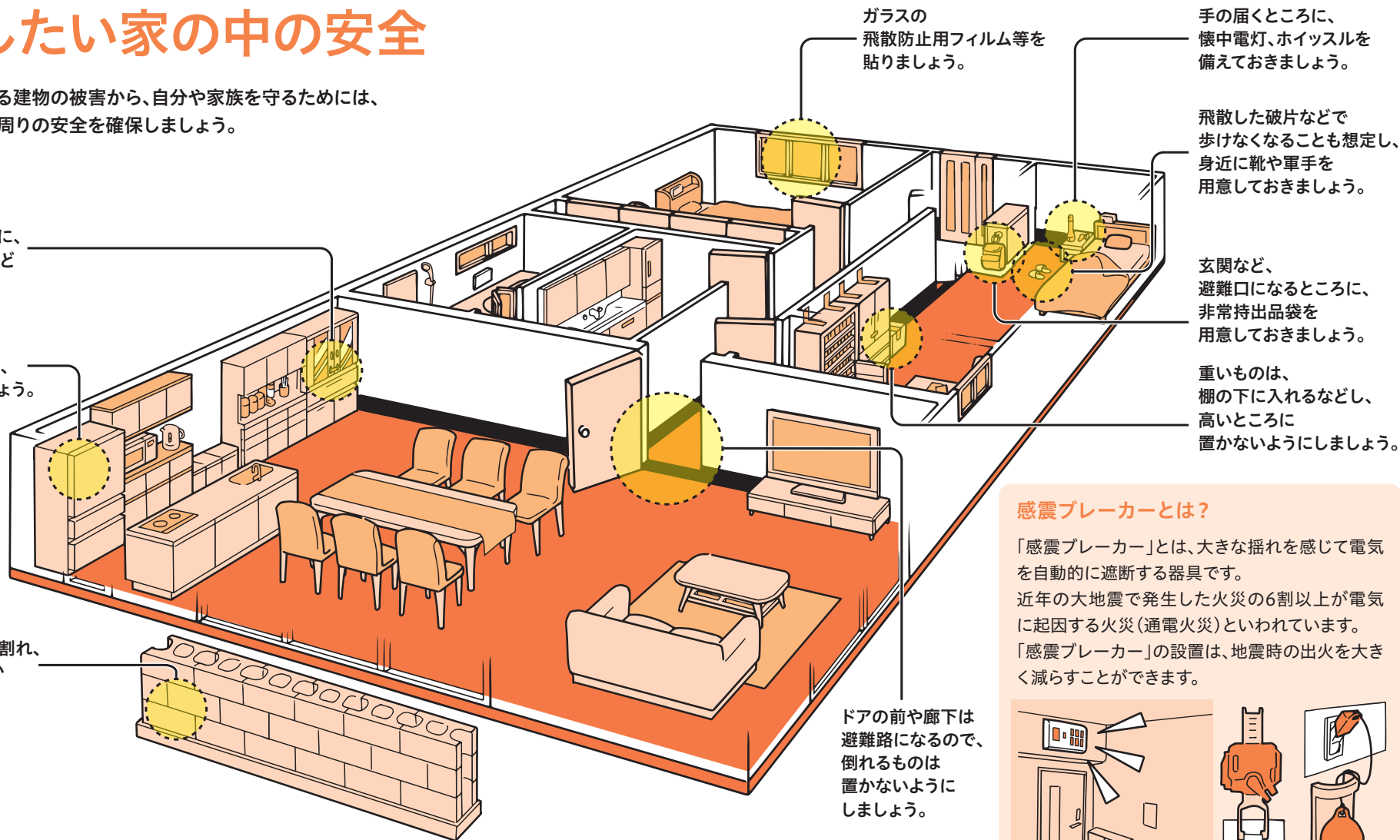
見直したい家の中の安全

地震の揺れによる建物の被害から、自分や家族を守るためには、部屋の中や家の周りの安全を確保しましょう。

戸棚の扉は、開いてこないように、留め金をつけるなどしましょう。

背の高い家具は、配置を工夫したり、固定したりしましょう。

ブロック塀にひび割れ、破損箇所がないか確認しましょう。



ガラスの飛散防止用フィルム等を貼りましょう。

手の届くところに、懐中電灯、ホイッスルを備えておきましょう。

飛散した破片などで歩けなくなることも想定し、身近に靴や軍手を用意しておきましょう。

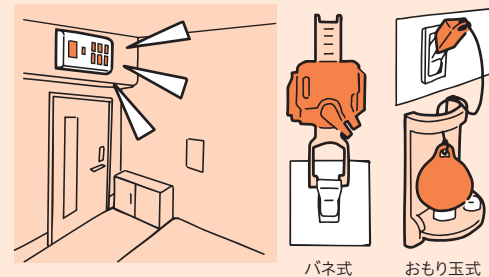
玄関など、避難口になるところに、非常持出品袋を用意しておきましょう。

重いものは、棚の下に入れるなどし、高いところに置かないようにしましょう。

ドアの前や廊下は避難路になるので、倒れるものは置かないようにしましょう。

感震ブレーカーとは？

「感震ブレーカー」とは、大きな揺れを感じて電気を自動的に遮断する器具です。近年の大地震で発生した火災の6割以上が電気に起因する火災（通電火災）といわれています。「感震ブレーカー」の設置は、地震時の出火を大きく減らすことができます。

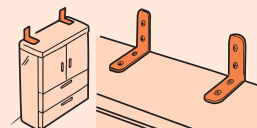


※夜間に地震が発生した場合に照明が消えることで、屋外への迅速かつ安全な避難の妨げになることも考えられるため、非常灯を準備しましょう。

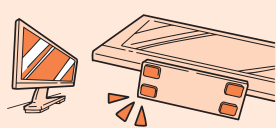
※本市では木造住宅の密集する地域を中心に、感震ブレーカーの設置の補助等を実施しています。詳細については、市ホームページ等にてご確認ください。

家具転倒防止器具を取り付けよう！

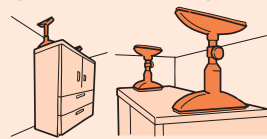
L字金具・ベルト
(壁に強度が必要)



粘着マット
(有効期限に注意)



つっぱり棒
(天井に強度が必要)



※本市では、同居している家族全員が65歳以上・障害者手帳所持者・要介護・支援者などのいずれかである世帯を対象に、家具転倒防止器具の取り付けを無料代行しています。詳しいお知らせは、広報などを通じて随時行予定です。



横浜市 家具転倒防止対策 検索



横浜市 感震ブレーカー 検索

備蓄品や非常持出品の準備

災害発生直後はインフラが止まり、食料や日用品の購入が困難に。
そのため、普段から必要なものを備えておくことが重要です。
支援物資などが届くまで最低3日、可能なら1週間分の量を準備しておきましょう。

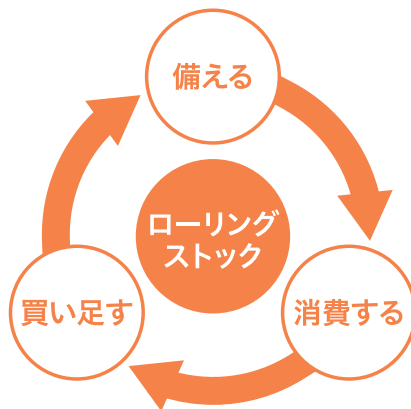
■ ローリングストックのすすめ

災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。

また、すぐ取り出せるところに非常持出品を準備し避難の際に持って行きましょう。

備蓄する量の目安は 最低3日分(できれば1週間分)です。

家族構成や生活スタイルにあわせて、食料や日用品を少し多く買い備えて、備えたものを順番に使いながら新たに買い足していく循環型備蓄(ローリングストック)という考え方もあります。



〈災害時に必要なもの〉

飲料水・食料品

□ 飲料水

1人3日分で9ℓが目安です。
(例)3人家族の場合:
3人×9ℓ=27ℓ



□ 食料品

クラッカー、缶詰、レトルト食品、フリーズドライ食品など調理せずに食べられるものなど
※食物アレルギーのある方は、自分に適したものを備蓄するようにしましょう。



貴重品類

- 現金
- 預貯金通帳
- 印鑑
- 健康保険証・運転免許証
マイナンバーカード

日用品・生活用品

□ トイレパック

1日あたりの平均排泄回数は5回といわれています。1人3日分で15個程度が目安です。
※ 家庭のトイレなどに設置して使用する「凝固剤」と、「処理袋」のセットです。ホームセンターなどで購入できます。

- 懐中電灯・ランタン
- 携帯ラジオ
- 救急医薬品
- 常備薬
- お薬手帳
- 手指消毒液
- ウェットティッシュ
- 生理用品
- 歯磨き用品
- タオル
- 軍手
- 厚底の運動靴
- ヘルメット
- マスク



- ホイッスル
- ビニール袋
- 紙皿・紙コップ
- 食品用ラップ
- モバイルバッテリー
- 非常電源の確保

自分や家族の性別、年齢、ペットなど、家庭構成に応じて必要な備蓄を行いましょう

乳幼児のいる家庭で用意するもの

- ミルク(液体ミルク等)
- ほ乳びん
- 離乳食
- スプーン
- おむつ
- おしりふき
- 着替え
- ベビー毛布
- おんぶひも
- 乳幼児のおもちゃ



要介護者のいる家庭で用意するもの

- 着替え
- 障害者手帳
- 介護食
- おむつ
- 補助具等の予備
- 非常電源の確保



食事に特別な配慮が必要な方のいる家庭で用意するもの

(糖尿病・腎臓病・アレルギー・難病など)

- 栄養強化ゼリー
- 栄養強化流動食
- 低たんぱく質ご飯

※ 病状を悪化させないように、個人に適した食事の備蓄をしましょう。



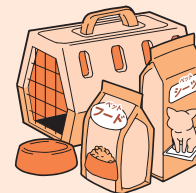
妊婦のいる家庭で用意するもの

- さらし
- 母子手帳
- 新生児用品



ペットのいる家庭で用意するもの

- ケージ
- リード
- ペットシーツ
- 常備薬等
- 首輪
- フード
- 糞尿の処理用具



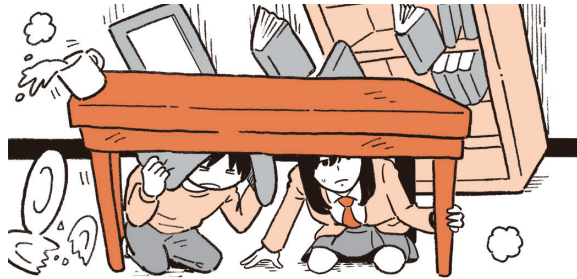
地震が起きたときの身の安全

災害時は、一瞬の判断が生死を分けることも。

実際に大きな地震が起きたら、パニックになる気持ちはわかりますが、取るべき行動を事前に知っておくことは冷静な判断や行動の一助になるはず。

■ 自宅にいるとき

- クッションや布団、枕など近くにあるもので頭を守る。
- 丈夫な机の下に身を隠す。
- ガラスの破片などでケガをしないように注意する。
- あわてて外に飛び出さず、ドアや窓を開けて出口を確保する。



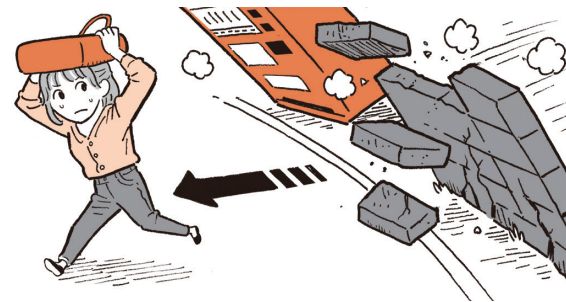
■ デパートやスーパーにいるとき

- 陳列棚の転倒や商品の落下に注意し、柱や壁際に身を寄せる。
- 衣類や手荷物、買い物カゴを使って頭を守る。



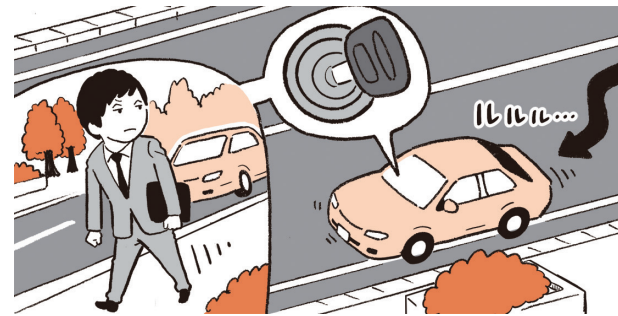
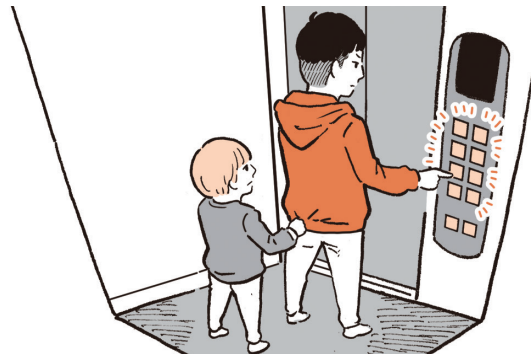
■ 地下街にいるとき

- 地下は地震時に比較的安全といわれているため、柱や壁際に身を寄せ、揺れのおさまりを待つ。
- しばらくすると非常灯がつくため、停電してもあわてない。
- 火災が起きたら、ハンカチなどで口、鼻を押さえ、身体を低くし、係員の指示に従い冷静に行動する。
- 津波のおそれがあるときは、揺れがおさまったら、係員の誘導に従って速やかに地上へ移動する。



■ エレベーターに乗っているとき

- 全ての階のボタンを押して、停止した階で降りる。
- 閉じ込められたとき、非常ボタンやインターホンで連絡を取り救助を待つ。
- 余震の可能性もあるため、避難にエレベーターは使用しない。



■ 車を運転中のとき

- 急ブレーキをかけず、ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落として道路わきに停車する。
- 揺れがおさまるまで、車内のラジオなどで情報収集する。
- 車を離れるときは、緊急で移動させることもあるため、キーは車内に置いておく。

■ 電車に乗っているとき

- 大きな地震があると電車は止まるため、手すりやつり革などにしっかりつかまる。
- 座っていたら、前かがみになって足をふんばる。
- 勝手に降車せず、乗務員の指示に従い行動する。



■ 外にいるとき

- 自動販売機やブロック塀、電柱など倒れやすいものから離れる。
- カバンなどで頭を守り、看板や外壁など落下物の危険性のある建物から離れる。
- 垂れ下がっている電線やガス漏れている場所には絶対に近づかない。
- 道路が液状化や地割れを起こしている場所には近づかない。

■ 山や崖の近くにいるとき

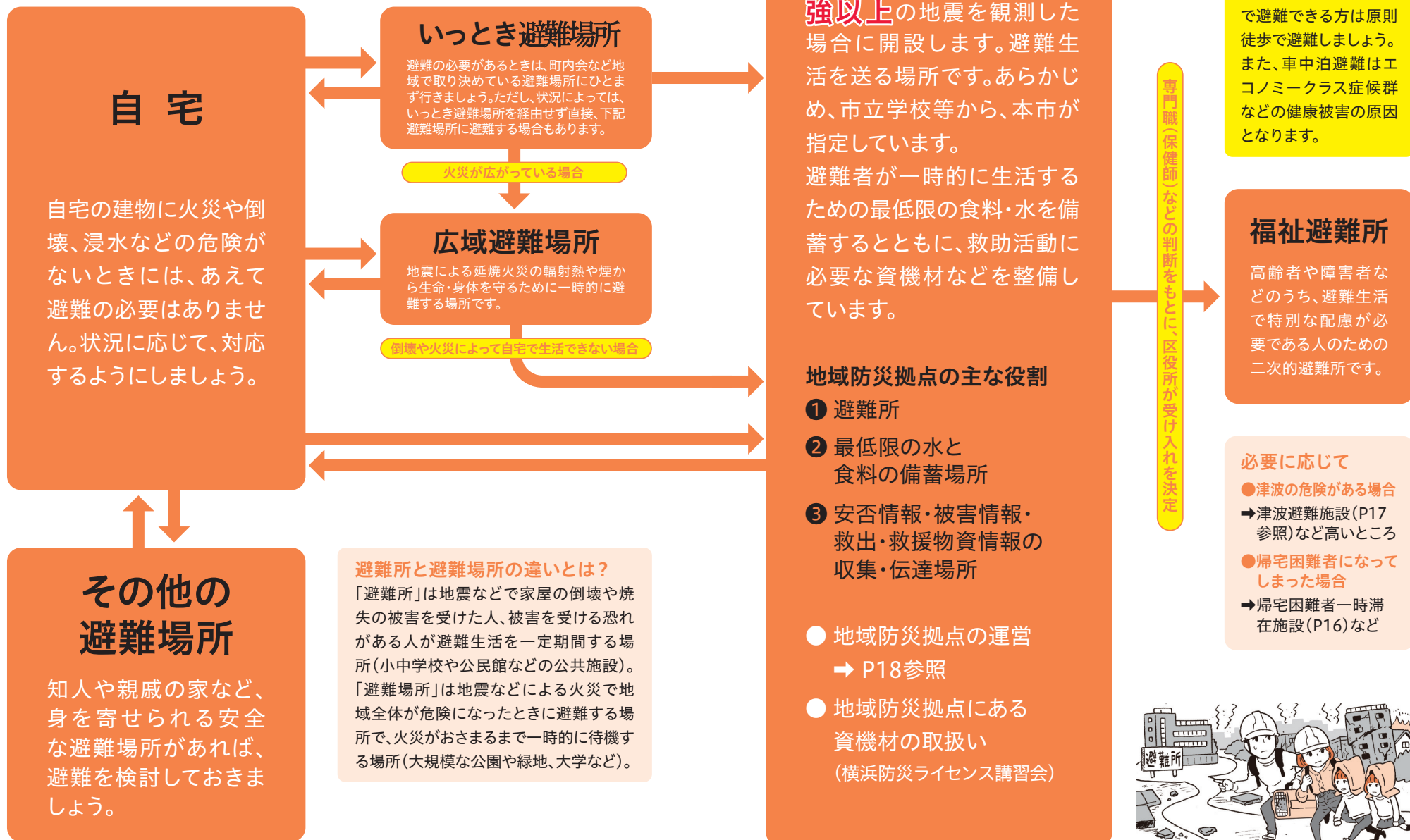
- 地震を感じたらすぐ危険な場所からすばやく避難する。
- 余震で土砂崩れを起こすこともあるため、山や崖には近づかない。



避難場所のあれこれ

状況などにより、避難するかどうか、するならどこに避難するかを判断します。

地震＝避難ではなく、自宅が安全が確保されるなら、無理に避難する必要がないことも念頭に入れておきましょう。



考えられる被害への備え(帰宅困難者・津波)

大きな地震が起こると、交通機関がしばらく運休して帰宅が困難に。また、海や川などのそばでは津波が発生します。どちらも、安全かつ冷静な行動が取れるよう、日頃から準備をしておきましょう。

■ 帰宅困難者対策

● 事前の準備

無理に帰宅しなくて済むよう、職場に泊まれる準備をしておきましょう。帰宅せざるを得ない場合にも備え、職場には帰宅グッズ(飲料水、モバイルバッテリー、着替え、スニーカー、地図など)も用意しておきましょう。普段から帰宅ルートを確認し、実際に歩く練習をしておくのもおすすめです。また、家族などと連絡手段や集合場所も話し合っておきましょう(P34参照)。



● 大地震が発生してしまったら

駅前や繁華街は人が滞留し、大混乱になる可能性があります。むやみに移動を開始せず、被害の状況や電車の運行状況、家族の安否などの情報収集を心がけ、安全な場所に留まりましょう。幹線道路や道幅の広い道路を選んで移動する、時間をずらして明るくなってから移動するなどの工夫も忘れずに。



帰宅困難者一時滞在施設の利用

横浜市では、帰宅困難者一時滞在施設を指定しています。一時滞在施設では、トイレや水道水の提供を受けることができ、「一時滞在施設NAVI」を使って近くの施設を検索することができます。ブックマークに登録しておきましょう。



一時滞在施設
NAVI
スマートフォン版



本市の帰宅困難者対策について、詳しくは、

横浜市 一時滞在施設

検索



■ 津波からの避難のポイント

(横浜市内で予想される津波の高さは最大約4.9m)

● より早く、より高い場所への避難

横浜市内で津波から避難するときは、

- 海拔5m以上の高台
- 鉄筋コンクリート造等、かつ地震の揺れによる被害のない建物で3階以上を避難の高さの目安にしましょう。

● 避難に車を使わない

車を使わずに避難しましょう(自立歩行が困難な要援護者等が避難する場合、その他やむを得ない事情がある場合を除く)。

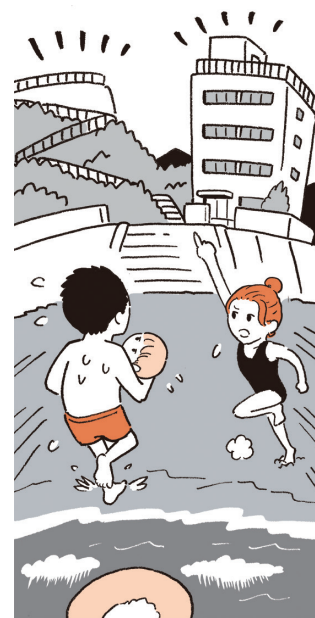
一斉に車で避難すると渋滞が発生し、逃げ遅れてしまう可能性があります。

● 自宅や職場などで自らできる津波避難対策

津波から避難するためには、今自分がいる場所がどのくらいの高さであるかを知っておくことが必要です。

そのため、沿岸地域を中心に設置している「海拔標示」や、「津波からの避難に関するガイドライン」に掲載している「避難対象区域図」、市のホームページに掲載している「わいわい防災マップ」の都市計画基本図などにより、自らの生活圈や普段よく訪れる場所などの高さを確認しておいてください。

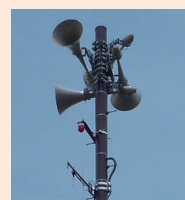
海水浴等で、市外へお出かけの際は、海へ入る前に予想される津波の高さ、避難場所を確認しましょう。



海拔標示

スピーカーを使ったお知らせ

横浜市では、津波浸水予測区域に津波警報などを知らせる津波警報伝達システムの屋外スピーカーを設置しています。



津波避難対策
について



横浜市 津波避難対策

検索

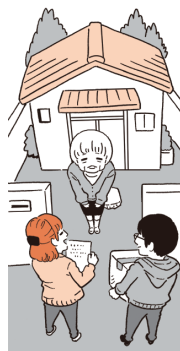


地震後の避難生活

自宅で避難するにしても、地域防災拠点などに避難するにしても、初めての避難生活はわからないことだらけ。
在宅避難や避難生活で大切なことを知っておきましょう。

■ 在宅被災生活者とは？

自宅が無事だった方までが地域防災拠点に行ってしまうと、避難スペースがいっぱいになってしまうので、このような方(在宅被災生活者)は家に戻って寝泊まりをします。
在宅被災生活者であっても、地域防災拠点で、必要な物資や情報が得られます。



こんなことを心がけよう！

- 在宅被災生活者同士で声かけを行う。
- 地域防災拠点から集めた情報は、みんなで共有できるように掲示する。
- 救援物資を町内会館などで協力して分配する。
- 高齢者など支援を要する方々への訪問と、情報や物資の提供を行う。

■ 地域防災拠点での避難生活で大切なことは？

地域防災拠点での避難生活は、地域住民の皆さんによる相互扶助によって運営します。
円滑な避難所運営のためには、**避難した全員が「お互いを尊重し」運営に協力していくこと**がとても大切です。

避難生活で行うこと(例)

※地域防災拠点の運営については、地域防災拠点運営委員会によってマニュアルが作られています。

開設して間もない頃

- 避難者の受け入れ、把握
- 区割り、授乳や着替えなど専用スペースの確保
- 夜間の避難所内の防犯対策
- 救出、救護活動
- 炊き出しの準備
- 備蓄物資の配給
- トイレ対策
- ペット同行避難者の受け付け、一時飼育場所への誘導



トイレの組立

避難生活の中で必要となってくること

- 物資の管理、調達
- 在宅被災生活者との連携
- 情報の収集・整理・伝達
- 防犯のための見回り
- ボランティアの受け入れ
- 避難者の健康管理など

■ 避難生活での水・食料

地域防災拠点に備蓄している水、食料は、自宅等が倒壊、火災等により発災時に家庭内備蓄食料を持ち出せない方のための最低限の備蓄品です。そのため、各家庭で必要な備蓄をしておかなければなりません。**地域防災拠点に避難するときは、備蓄したものを必ず持参しましょう。**

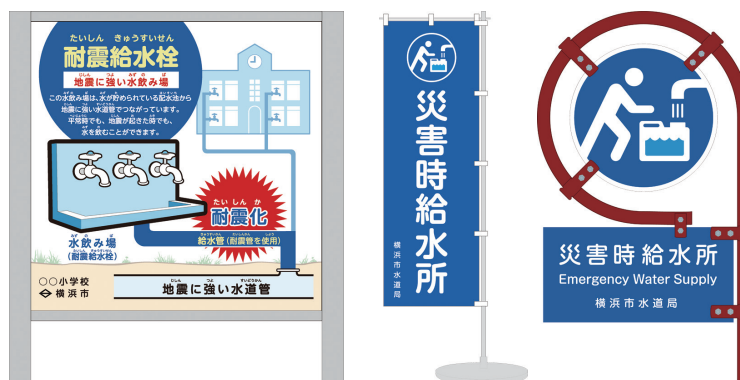
地域防災拠点にある飲料や食料の備蓄

- 水缶詰： 2,000缶
- クラッカー： 1,000食
- 保存パン： 1,000食
- おかゆ： 460食
- スープ： 220食
- 粉ミルク・ほ乳瓶： 20セット

■ 災害時給水所とは？

地震による災害などで断水したときに、誰でも飲料水を得られる場所が「災害時給水所」です。災害時給水所には、災害用地下給水タンク、配水池、緊急給水栓、耐震給水栓などがあります。災害用地下給水タンクがある場所には、右の「標識」が、耐震給水栓がある場所には「看板」が設置され、給水準備の整った配水池や緊急給水栓などには「のぼり」が掲出されます。また、災害用地下給水タンクや緊急給水栓などでは地域の要望に基づいて応急給水訓練が行われています。

災害時給水所の災害時における開設状況については、水道局のウェブページで確認することができます。



横浜市水道局災害時情報

横浜市水道局災害時情報(応急給水情報等)

検索

